

科学者委員会・科学と社会委員会合同広報・科学力増進分科会 (第23期第6回) 議事要旨

1. 日 時 平成27年11月15日(日) 12:30～13:30
 2. 場 所 日本科学未来館 2階 会議室3
 3. 出席者 小松 久男委員長、那須 民江副委員長、須藤 靖副委員長、嶋田 透委員、福田 裕穂委員、萩原 一郎委員、柴田 徳思委員
- 参考人 青柳 みどり 日本学術会議連携会員、国立研究開発法人国立環境研究所社会環境システム研究センター環境計画研究室室長
- 村田 勝敬 日本学術会議連携会員、秋田大学大学院医学系研究科教授
- 上島 通浩 名古屋市立大学大学院医学研究科教授
- 大瀧 直子 主婦、前内閣府食品安全委員会企画等専門調査会専門委員
- 高畠 勇二 一般社団法人エネルギー・環境理科教育推進研究所副代表理事
- 安井 省侍郎 厚生労働省労働基準局安全衛生部安全課副主任中央産業安全専門官
- 事務局 石井参事官、坂上補佐、大橋専門職付、熊谷専門職付

【配布資料】

- 資料1 出席者一覧
- 資料2 前回議事要旨(案)
- 資料3 広報・科学力増進分科会主催シンポジウム概要
- 資料4 広報・科学力増進分科会再編についての資料

【参 考】

- 参考1 委員名簿

議 事

- (1) 前回議事要旨案の確認

発言者名及び「学術の動向」の査読者に関する記載を削除することをもって、前回の議事要旨案(資料1)が了承された。

- (2) 「サイエンスアゴラ2015」について

・サイエンスアゴラについては、従来から日本学術会議が協力（共催あるいは後援）しているイベントである。今後の在り方については、科学力増進分科会において継続して検討いただきたい。

・午前に開催された「レギュラトリーサイエンスの理解と社会応用」を終えて、コーディネーターの那須副委員長より、宣伝（広報）の難しさ及び来年については宣伝の仕方を検討する必要がある旨コメントがあった。

→ 地道な方法だが、関係者コミュニティに対してのメーリングリストによる周知があるだろう。

→ 新聞等を使った宣伝方法もあるだろう。タイトルを分かりやすいものにする、ということも検討した方がよいだろう。

(3) その他

資料4により、広報・科学力増進分科会の再編について小松委員長から以下の発言があった。

・分科会において再編に関して審議・決定するということではなく、現況を確認するとともに、これまでの経験を踏まえて幹事会に報告すべきことがあれば、それをまとめることにしたい。

・前回の分科会において、二つの会議体に分けて議論を行った方がよいだろうという結論に至り、それを大西会長並びに幹事会へ報告した。現在は再編に向けて準備をしている。

《広報委員会について》

・幹事会附置委員会として設置予定の広報委員会の在り方について、以下のとおり小松委員長より説明があった。

- 先般の外部評価においても、日本学術会議の広報活動は一層の充実が望まれるというご意見があったことを踏まえて考えていく必要がある。
- 現状のおもな広報活動である月刊誌『学術の動向』及び日本学術会議 HP をどうするか。より多くの読者（閲覧者）の獲得を考えていく必要がある。
- 新聞社等の外部の広報機関（組織）と協力しながら広報活動を展開していく必要もあると考えられる。
- 日本学術会議は質の高い情報を豊富に有しながら、それを外に向けて十分に発信できていない。これを打開することが必要と考えている。

・別紙 1-4 のとおり、現在の分科会委員の希望を反映して広報委員会委員名簿（案）を作成している。現状 9 名となっているが、幅広く分野をカバーする必要性及び『学術の動向』の編集後記執筆等の業務があるため、12 名前後を見込

んで追加したい。出席いただく観点から、多くの委員を兼任されている方は控え、かつ連携会員を中心にメンバーを募りたいと考えている。

→ 各部から1名ずつの追加はいかがか。分野のバランスもよく、12名となる。

→ 継続性の観点から、来期（第24期）も日本学術会議会員・連携会員である方を追加委員候補として考えた方がよいだろう。

《科学力増進分科会について》

- ・科学力増進部分については、科学と社会委員会の下に科学力増進分科会として設置の予定であり、これによって今の合同分科会になる以前の形に戻る事となる旨、小松委員長より説明があった。

- ・科学力増進分科会の設置提案書（案）の作成については、須藤副委員長に一任された。

- ・別紙2-4のとおり、現在の分科会委員の希望を反映して科学力増進分科会委員名簿（案）を作成している。3名の委員が広報委員を兼ねているが、これは現行の分科会との継続性を考慮したためである。

- ・現状、別紙2-4のと通りのメンバー構成となっているが、人数についてのご意見はいかがか。

→ 2～3名は追加した方がよいだろう。特に第一部からもう1名ご推薦いただきたい。

→ 現状で第三部は3名いるので、第一部・二部から1名ずつ推薦してはどうか。

→ 会員、連携会員の別を問うことなく、できるだけ出席可能な方を推薦いただきたい。

→ 定足数のことを考えると、人数はあまり多くしない方がのぞましい。

以上の意見を踏まえ、第一部・二部から1名ずつの推薦を提案することとした。なお、広報委員会と同様に継続性を考慮することとし、追加委員候補を考えるにあたっては、今期より会員になった方を念頭に置くこととした。

また、関連して以下の質疑があった。

- ・再編は今年度中に行う必要があるのか。旅費の問題もあるので、今後3月末までの各会議の業務を勘案して、可能であるならば4月に再編をして委員委嘱をした方がよいのではないか。その方が会議も開きやすいと考える。

→ 私見だが、広報委員会においては『学術の動向』に関する業務があるため、4月までは待てず、1月を目途として1度開催し、役員も決めておく必要があるように思う。科学力増進分科会については、高校理科教育検討小委員会から上がってきている提言案があり、査読を終えた後のフォロー

アップが必要と考える。いずれも年度内に1度は開く必要があると考えている。

- ・高校理科教育検討小委員会については、形式的には、科学力増進分科会の下に新規設置されることとなるが、委員の構成はそのまま引き継ぐことになった。

なお、別紙 2-5 は古い資料であることが指摘され、事務局において修正することとなった。

- ・今回の意見を踏まえ、再編にともなう規定や委員の追加を12月の幹事会で審議してもらい、特に問題がなければ1月以降に再編後の新しい形で委員会及び分科会の第1回会合を開催できればと思う。

- ・本日で本分科会の開催は最後となるが、これまでのご協力に感謝申し上げます。

以上